

地域・学校・家庭の協働で、みんな笑顔 ～子供たちの地域貢献を通して～



学校	学校運営協議会	地域学校協働活動推進員等数 (赤字は内学校運営協議会委員数)	地域学校協働本部
荒尾市立 緑ヶ丘小学校	緑ヶ丘小学校学校運営協議会 平成29年4月1日 設置	地域学校協働活動推進員 2名 2名 地域コーディネーター 0名 0名	荒尾市地域学校協働本部



取組の背景及び目標や目指す姿

背景

本校周辺は、市のリニューアルタウン計画で校区に大型商業施設やマンション、住宅地などが整備され、児童数も増加した。しかし、他地域からの移住者も多く、「地域のつながり」が課題となっていた。また、学校の統合により、それぞれの地区協議会を中心に地域活性化の取組が行われ、学校に対しても多大な支援と協力を得ている。平成29年度からは、コミュニティ・スクールを導入し、地域の教育資源を取り入れた学校づくりを推進するとともに、五者連携によるwin&winの関係づくりをめざしている。

目標や目指す姿(学校)

家庭や地域との協働のもと「生きる力」を備えた子どもを育成する

目標や目指す姿(地域)

みんなで創ろう 明るく住みよい 元気なまち



緑ヶ丘小学校学校運営協議会 の特徴

委員の立場や属性等

- | | |
|--------------------------------------|------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 地区協議会長 | <input type="checkbox"/> 民生委員、児童委員 |
| <input type="checkbox"/> 地区協議会員 | <input type="checkbox"/> 高校副校長 |
| <input type="checkbox"/> 地域学校協働活動推進員 | <input type="checkbox"/> 前PTA会長 |
| <input type="checkbox"/> PTA会長及び役員 | など、計 13名で構成 |
| <input type="checkbox"/> おやじの会 | 年間平均 5回程度開催 |

効果的な運営の工夫

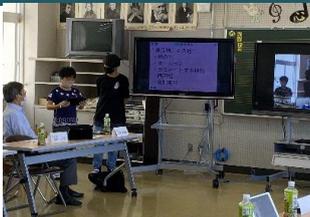
- ・学校運営協議会からの一方通行とならないように、児童・職員を会議に参加させ、お互いを知る機会をつくるとともに、相互間での協議ができるようにした。
- ・職員や児童が参加するために平日の午後に行えるよう日程の変更等を行った。また、参加が難しいようであればオンラインでの参加を可能にした。



特徴的な取組と成果・効果

学校運営協議会

- 1 児童より地域のゴミ拾いや校区美術展等の提案を行い、実際に地域と連携して取組を行った。
- 2 職員との交流を図るために第1段階で一緒に協議を行い、学校の課題や地域貢献について話し合った。
- 3 学校での児童の様子を参観したり、学校行事のふるさとウォークの見学・参加により交流を深めた。



学校運営協議会で提案する子供たち

地域学校協働活動

- 1 地域との連携のもとアール・ブリュット展を開催した。
- 2 地域行事のみどりまつりで準備から撤去まで地域の方と一緒にいった。
- 3 学校行事のふるさとウォークでは、地域や保護者に見守り活動や史跡説明、児童と一緒に史跡巡りなどをし、参加してもらった。



「ふるさとウォーク」で地域の方から史跡の説明を聞く子供たち

「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施」のための工夫等

学校と地域、家庭、関係団体が連携・協力することで、多様な人材を活用した効果的な学校教育活動につなげている。また、地域学校協働活動推進員の配置により、教職員の負担軽減にもつながっている。さらには、児童の地域貢献活動を仕組むことで、学校と地域・家庭が互いにWin&Winの関係となるような取組にするとともに、多くの人の参加を得ながら継続した活動となるように無理のない計画と活動を心掛けている。児童の地域行事への参画については、総合的な学習の時間のカリキュラムを見直し、行事の準備、実施、反省までを取り入れ、授業日として設定している。

取組

成果・効果

地域貢献をめざし、昨年より、学校運営協議会の話し合いに、児童が参加し、地域貢献活動内容について協議をする時間を設定した。6年生は、地域の方々とともに、ゴミ拾いの清掃活動が実現できた。また、児童の主体的な力の育成の一助にと地域からの資金援助の提案を受け、「アール・ブリュットパートナーズ熊本」の協力により5年生が「アール・ブリュット展」を開催した。障がい者の作品と校区の中学校の美術部の作品を合わせて展示し、地域住民への公開を行った。地域や中学校も巻き込んだ本格的な作品展となった。今年度は、地域貢献が持続可能な活動になるように総合的な学習の時間の内容の見直しを行った。そして、昨年に引き続き、学校運営協議会の話し合いに5年生も参加し、貢献活動内容を協議できた。

子供たちが地域貢献活動をしたり、地域行事である「みどりまつり」に参画したりすることで、自ら行動する子供たちの姿に対して、地域住民からの高評価を得ることができ、子供たちの自己有用感の高まりや自発的な奉仕活動の取組などにもつながっている。また、イベントの中に子供が企画したアイデアなどを取り入れることで、保護者や家族連れなど、参加者数も増加し、地域住民のつながりづくりに貢献している。地域住民や保護者のボランティア登録数が増加し、今まで以上に学校の教育活動に関心を持ち、学校支援に協力的になった。子供たちと直接触れ合う機会が増えたことで、互いの顔を覚えるなど、関係が近くなり、安心、安全の確保にもつながっている。また、子供たちと活動することで、「子供たちから元気をもらった。」とやりがいや楽しさを感じている声を聞くことが多くなった。